

5年生の教室へ入っていくと「国語」が始まっていた。「たずねびと」という教材。作者は朽木祥（くつきしょう）さん。広島生まれの児童文学者で被爆二世。原爆をテーマにした作品「たずねび」は光村図書：小学校国語5年生のために書かれたもの▼5年生の子どもは今日から「たずねび」を学ぶ。今から本文をみんなで読もうという時であった。空いている席があったので、その席にちょっと座らせてもらい、一緒に授業に参加させてもらった▼子どもは「たけのこよみ」と言っていた。常時3人の子が立っていて、順番に1文ずつ読んでいく。読んでは座り次の次の次の子が立つ。立ったり座ったり、ああなるほどタケノコみたいだ▼たけのこよみに参加させてもらいながら、子どもの読み声とともに作品に浸っていた。ところであなたは広島平和記念公園を訪れたことがありますか？訪れたことがある方なら、きっと作品に描かれている情景や場面がリアルに重なってくる。この作品は、現代の広島に続く▼直観的にこの子たちを「広島へ」連れて行けたらと思った。広島平和記念資料館、原爆ドーム・・・直視できない資料もある。様々な気持ちがこみ上げる▼子どもたちよ、戦争とは何か。原爆がもたらしたものは何なのか。自分で答えを出せる人になってほしい。「たずねびと」から広島へ原爆へ・・・5年生の子どもたちの学びも平和への礎となる。